

国語 第6学年 インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一つ目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる。目標・評価規準・単元計画・本時の活動に対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう」 教材名「聞いて、考えを深めよう」

2 単元の目標

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知識及び技能〕(1)オ)

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(A(1)エ)

聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる。この教材では、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

聞けない場合は教師の独自の経験談でも比較を行う。敬語は相手との関係に合わせ、録音や外部連絡は学校の条件を守る。想定する難しさは、相手の言葉をそのまま自分の結論にする。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時：○学校に関わる人への質問を準備し、意図と予想を記す。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第4～5時（本時）：○学校に関わる人への質問を準備し、意図と予想を記す。相手の返答を要点と理由に分けて聞き、追加質問で確認する。聞いた内容と自分の考えを区別してまとめる。 評価：思①（発言・活

動中の記録・作成物)

第4次 第6時：○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（A(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「相手の考えを聞いて、自分の見方のどこを確かめ直したくなりましたか」

【めあて】聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる。

予想される児童の反応：・予想と違う理由があった。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「相手の考えを聞いて、自分の見方のどこを確かめ直したくなりましたか」

学校に関わる人への質問を準備し、意図と予想を記す。相手の返答を要点と理由に分けて聞き、追加質問で確認する。聞いた内容と自分の考えを区別してまとめる。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・予想と違う理由があった。

・賛成するだけでなく、自分の考えの根拠も見直したい。

指導上の留意点：聞けない場合は教師の独自の経験談でも比較を行う。敬語は相手との関係に合わせて、録音や外部連絡は学校の条件を守る。

想定する難しさ：相手の言葉をそのまま自分の結論にする。

評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思①話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・賛成するだけでなく、自分の考えの根拠も見直したい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手の考えを聞いて、自分の見方のどこを確かめ直したくなりましたか」。中央は、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

